

# 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果について

二宮町教育委員会

## 1 はじめに

平成 26 年 4 月に実施された「平成 26 年度全国学力・学習状況調査」の二宮町立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。二宮町教育委員会では調査結果及び課題等を公表することにより、町民の皆様をはじめ児童生徒に関わる様々な立場の方に関心をもっていただき二宮町の学習状況の改善や児童生徒の学習意欲の向上につなげていきたいと考えております。

本調査の結果は町全体のものであり各学校や児童生徒個人の学力や学習状況を表すものではありません。また、本調査は児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面の結果です。二宮町は調査対象が各学年 200 名強の自治体です。集計結果を百分率で見ると一人ひとりの結果が大きく反映されますことも申し添えます。

町民の皆様におかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨をご理解いただくとともに、数値結果だけを重視するのではなく教育の過程も勘案いただき、本町の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効にご活用くださいますようお願いいたします。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の内容

#### ・児童生徒に対する調査

##### ア 教科に関する調査

小学校調査：国語・算数 中学校調査：国語・数学

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

出題内容

#### 主として「知識」に関する問題 (A)

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題

### 主として「活用」に関する問題 (B)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

#### イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

#### ・学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

### (3) 実施期日

平成 26 年 4 月 22 日 (火)

### (4) 調査を実施した児童生徒数

小学校 6 年生 233 人

中学校 3 年生 228 人

## 3 調査の結果

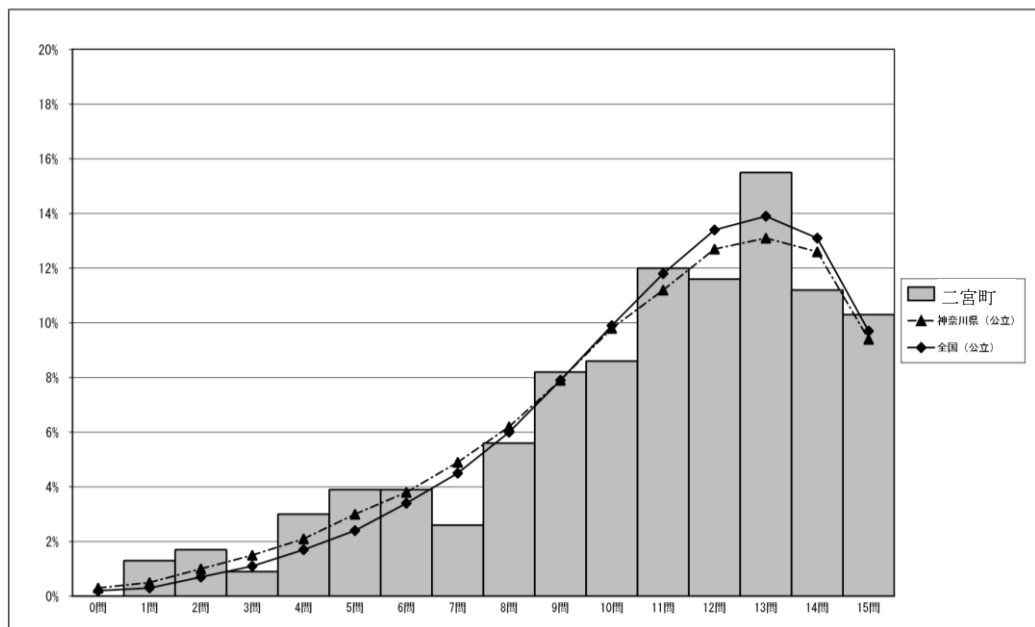
### (1) 平均正答率

平均正答率 学年・教科		A 知識 (%)			B 活用 (%)		
		二宮町	神奈川県	全国	二宮町	神奈川県	全国
小学校 6 年生	国語	71.1	71.3	72.9	55.7	54.6	55.5
	算数	75.2	76.9	78.1	56.3	58.6	58.2
中学校 3 年生	国語	84.3	79.2	79.4	58.7	51.5	51.0
	数学	76.1	67.0	67.4	70.2	60.8	59.8

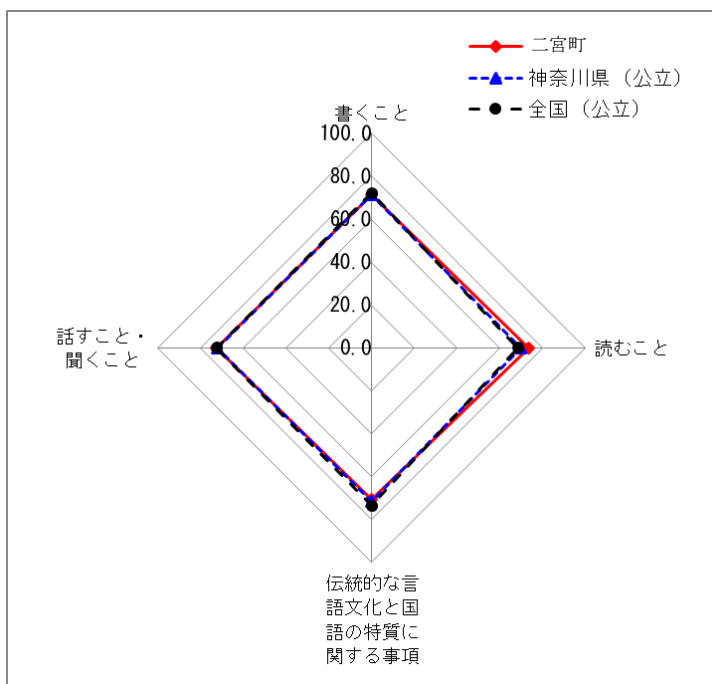
(2) 正答数分布グラフと設問別の状況 —学習指導要領の領域等の平均正答率の状況—

【小学校 国語 A：主として知識】

- ・正答数6問以下の児童が多い。
- ・領域によって全国、神奈川県との大きな差は見られない。

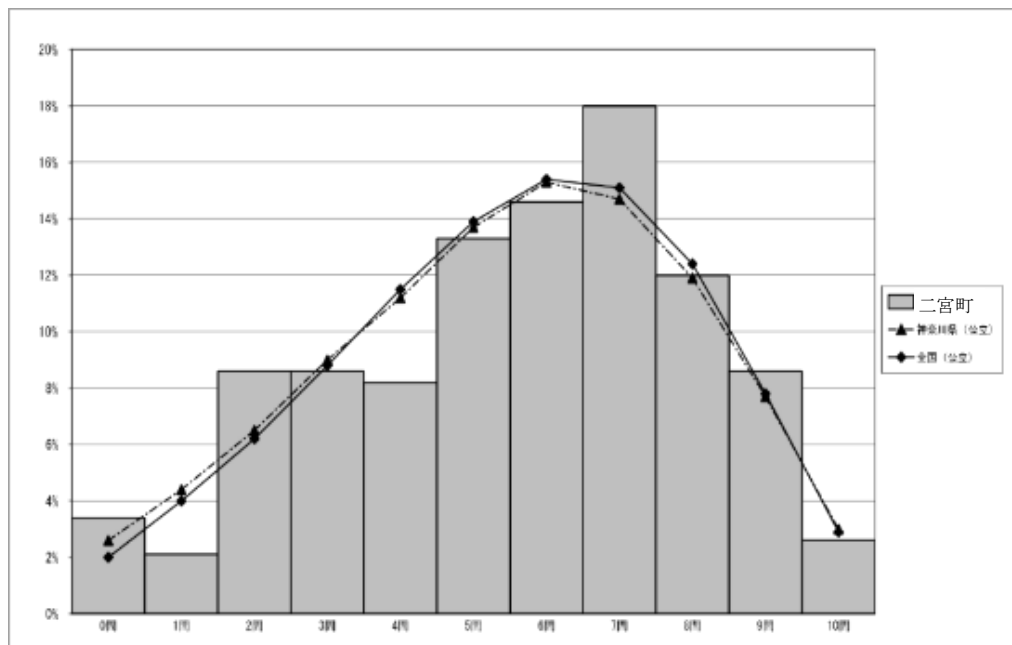


中央値：二宮町 11.0 神奈川県 11.0 全国 12.0

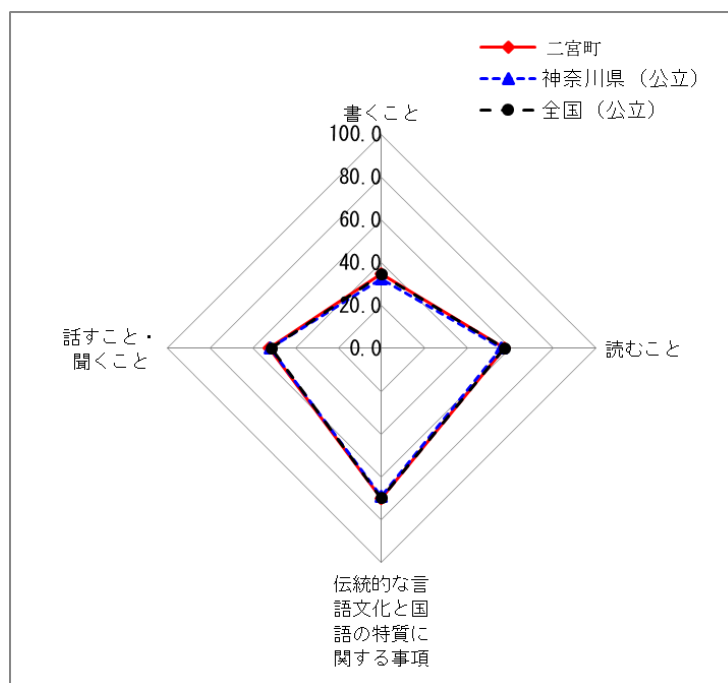


【小学校 国語 B：主として活用】

- ・ 正答数7問以上の児童が多い。
- ・ 領域によって全国、神奈川県との大きな差は見られない。

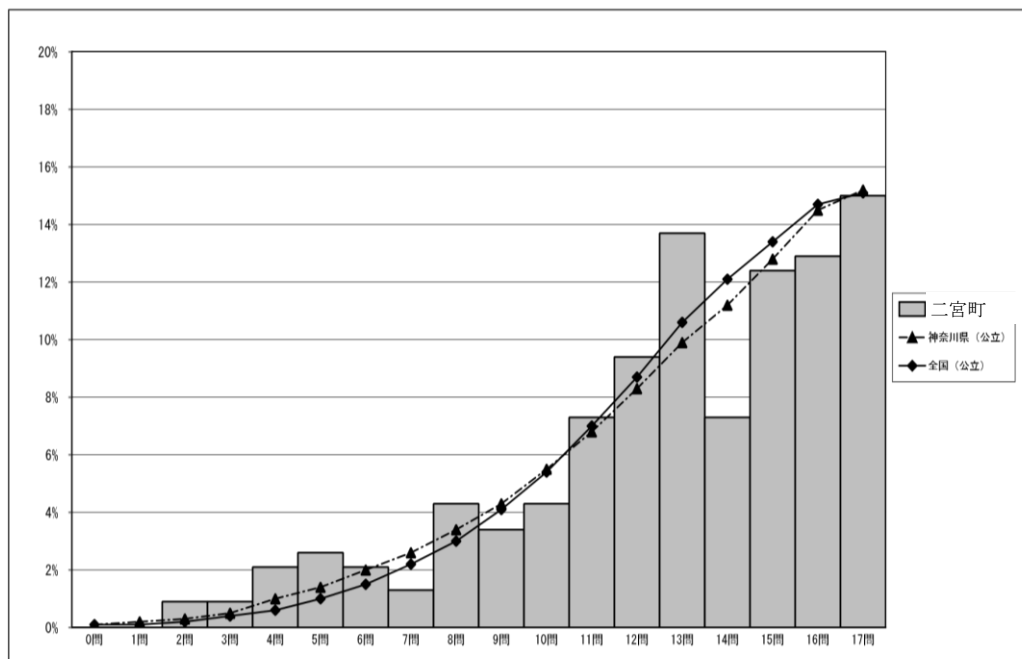


中央値：二宮町 6.0 神奈川県 6.0 全国 6.0

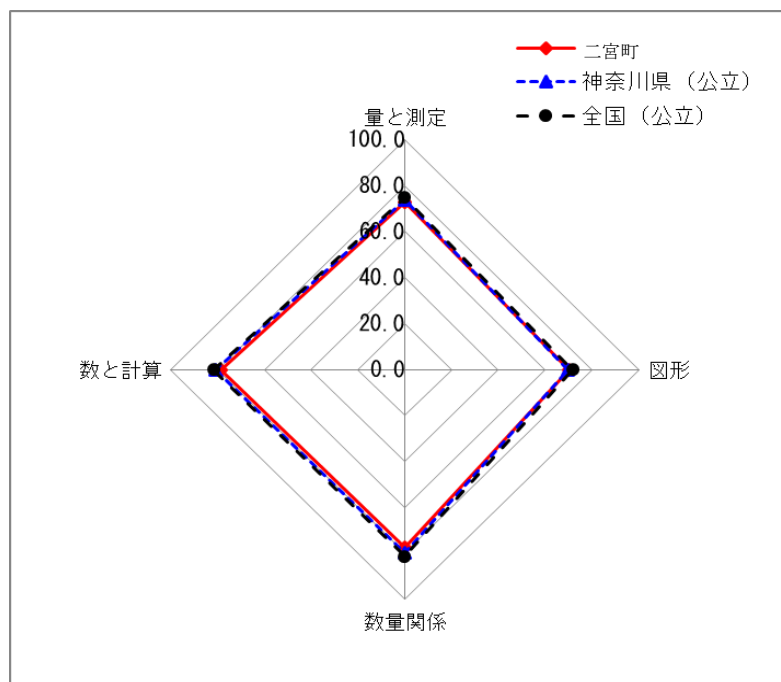


【小学校 算数 A：主として知識】

- ・ 正答数 8 問以下の児童が多い。
- ・ どの領域も若干神奈川県や全国の正答率を下回っている。

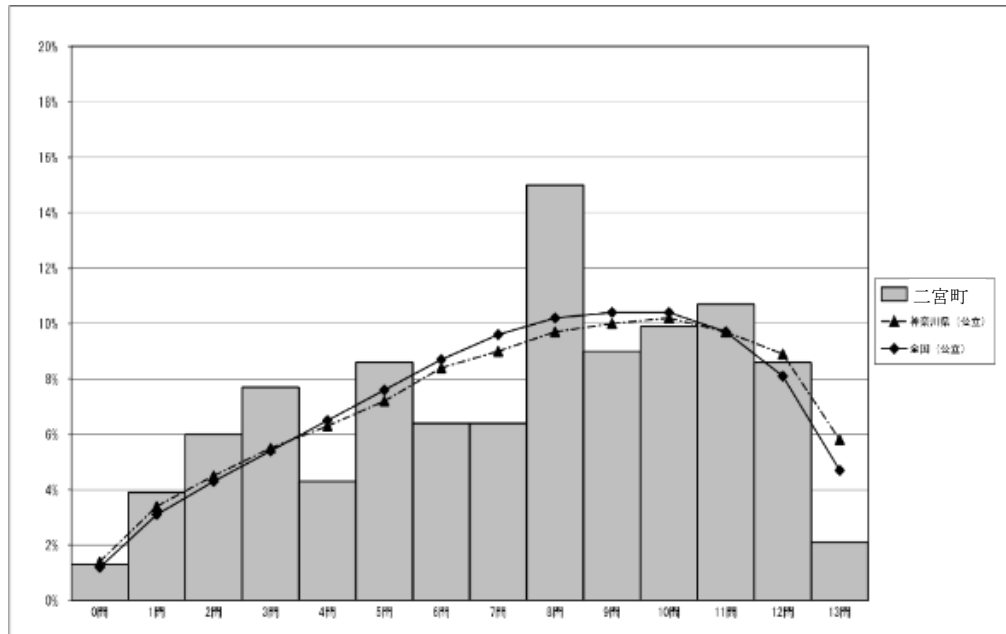


中央値：二宮町 13.0 神奈川県 14.0 全国 14.0

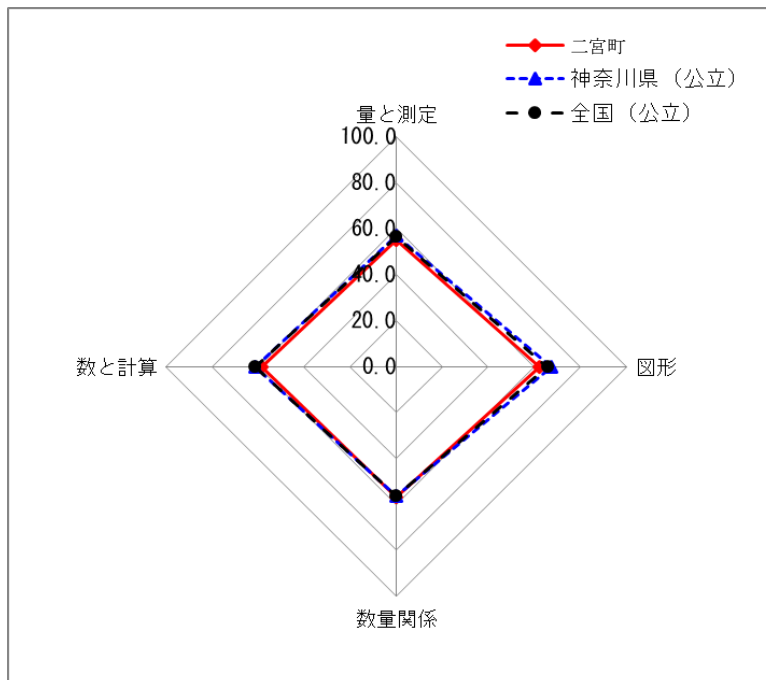


【小学校 算数 B：主として活用】

- ・ 正答数5問以下の児童が多い。
- ・ どの領域も若干神奈川県や全国の正答率を下回っている。

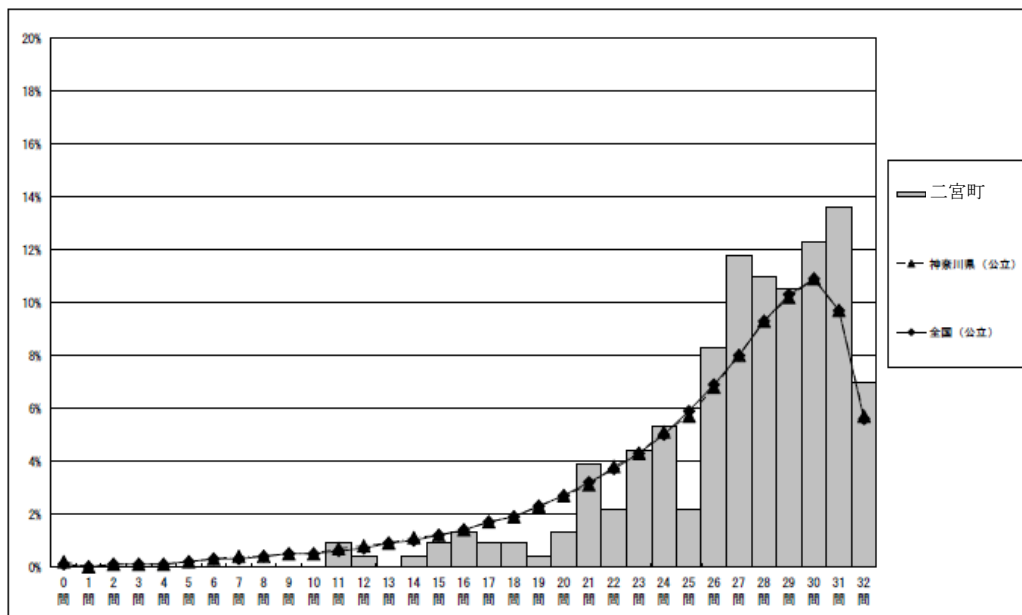


中央値：二宮町 8.0 神奈川県 8.0 全国 8.0

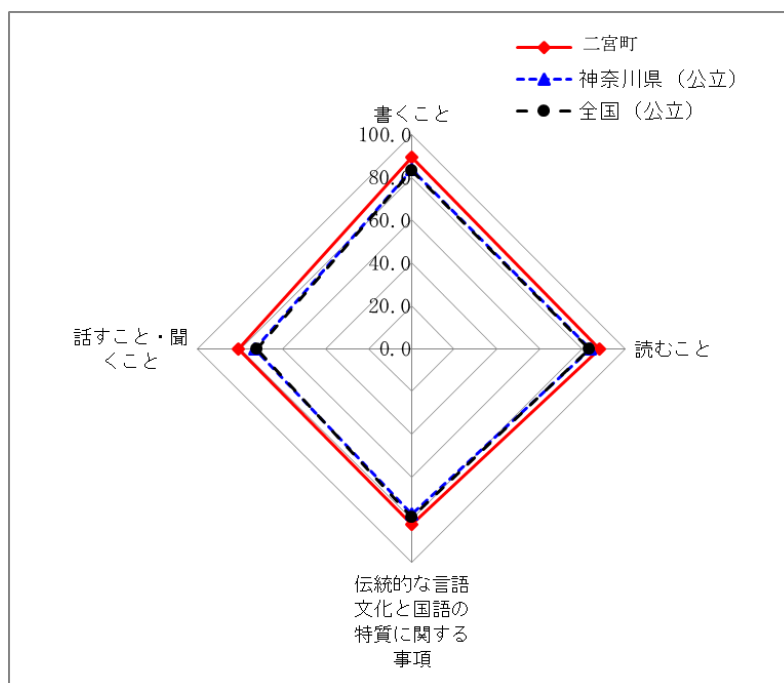


【中学校 国語 A：主として知識】

- ・ 正答数 20 問以下の生徒が少ない。
- ・ どの領域も神奈川県、全国の正答率を上回っている。

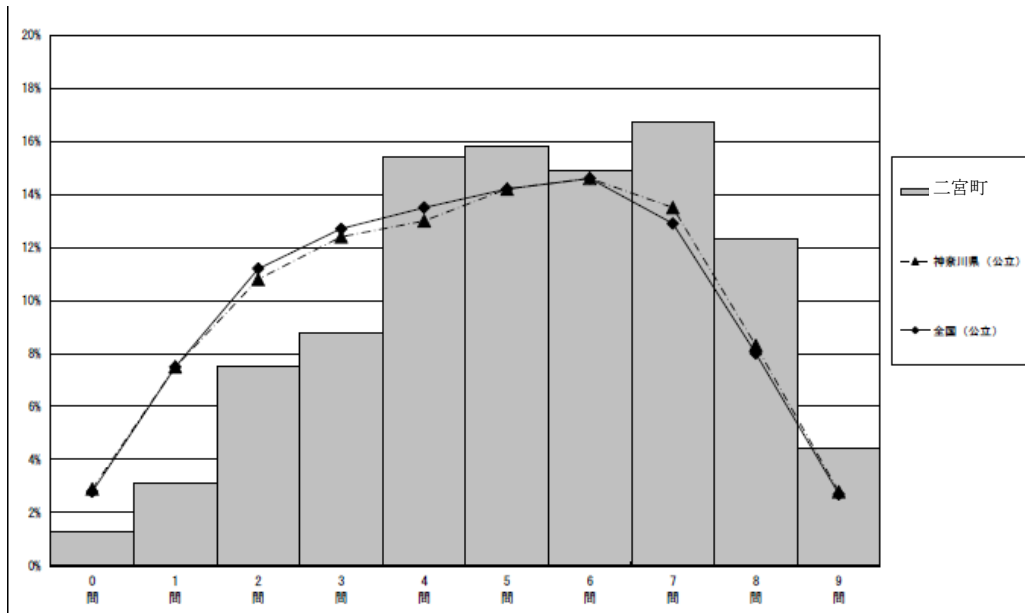


中央値：二宮町 28.0 神奈川県 27.0 全国 27.0

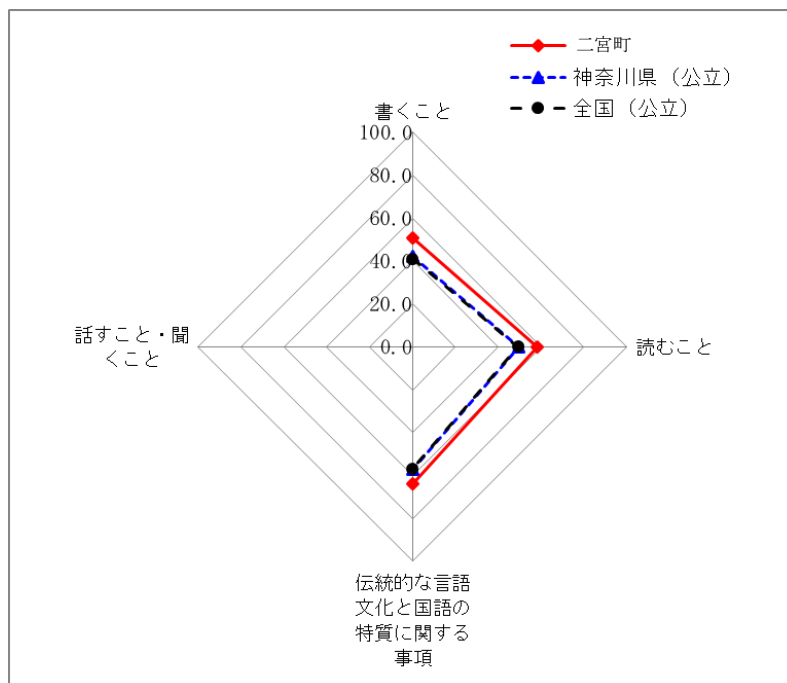


【中学校 国語 B：主として活用】

- 正答数3問以下の生徒が少ない。
- どの領域も神奈川県、全国の正答率を上回っている。



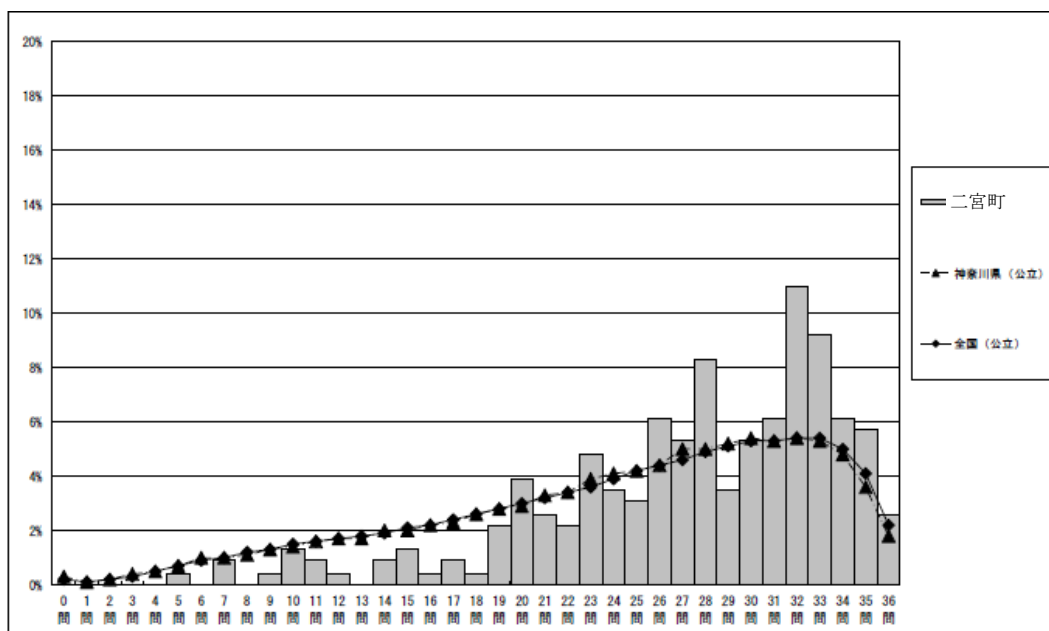
中央値：二宮町 5.0 神奈川県 5.0 全国 5.0



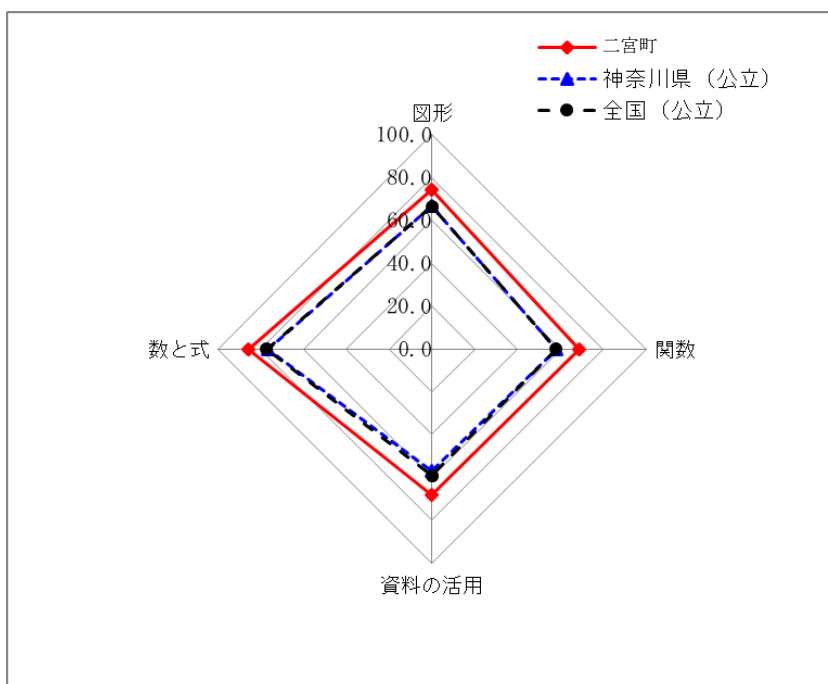


【中学校 数学 A：主として知識】

- ・ 正答数 19 問以下の生徒が少ない。
- ・ どの領域も神奈川県、全国の正答率を上回っている。

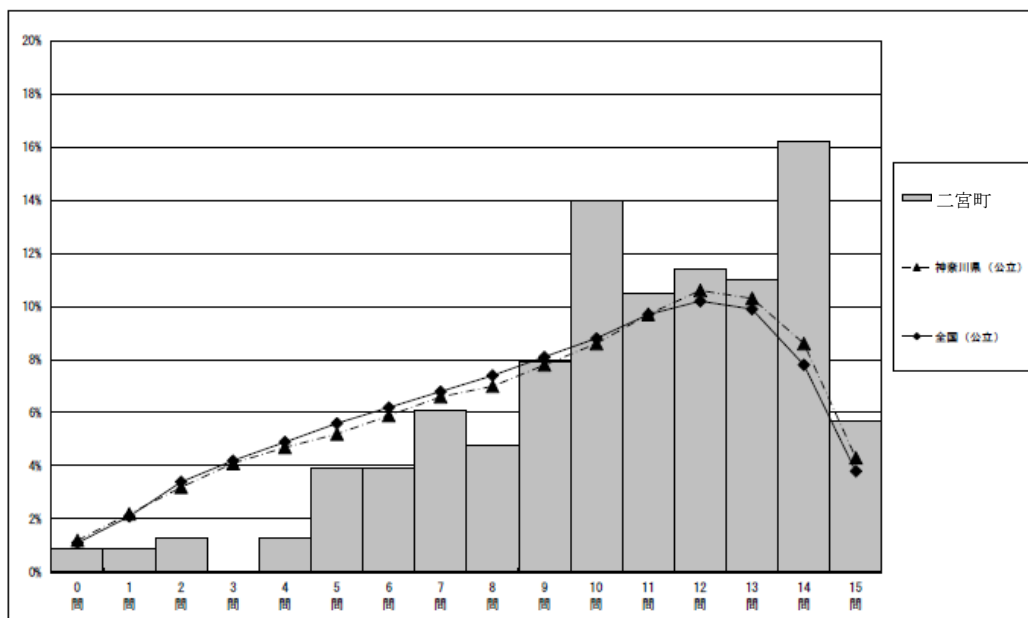


中央値：二宮町 28.0 神奈川県 26.0 全国 26.0

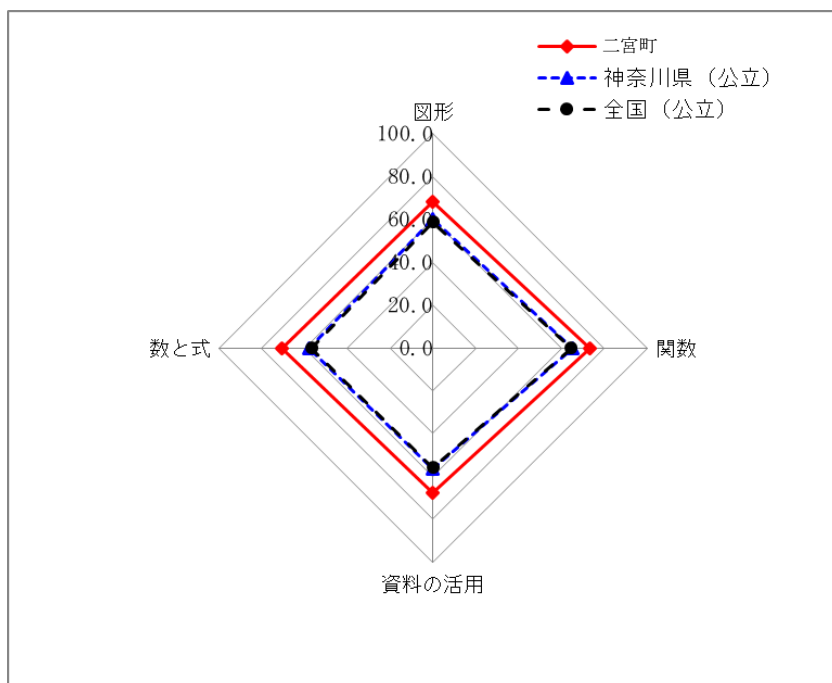


【中学校 数学B：主として活用】

- ・ 正答数8問以下の生徒が少ない。
- ・ どの領域も神奈川県、全国の正答率を上回っている。



中央値：二宮町 11.0 神奈川県 10.0 全国 10.0



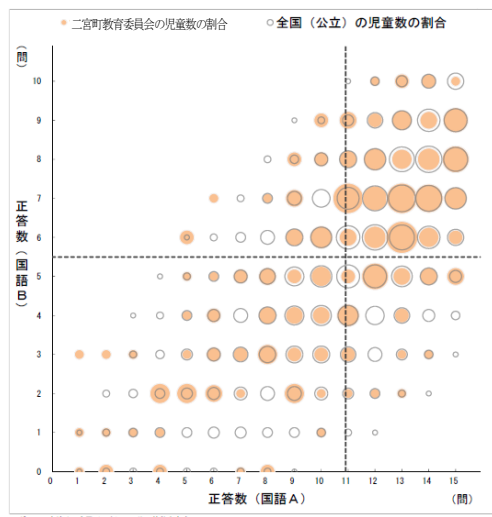
### (3) バブルチャート

(※バブルチャート…ある事象を表す円(バブル)を2つの軸を持つ図上に配置した図のこと。

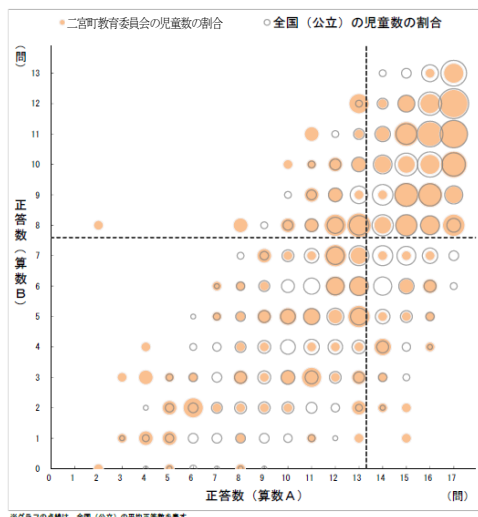
本調査ではAとBの調査がともに高得点の場合に円は右上方に描かれる。

(同一座標軸に表される児童生徒が多いほど円が大きくなる。)

【小学校 国語 A—国語 B バブルチャート】



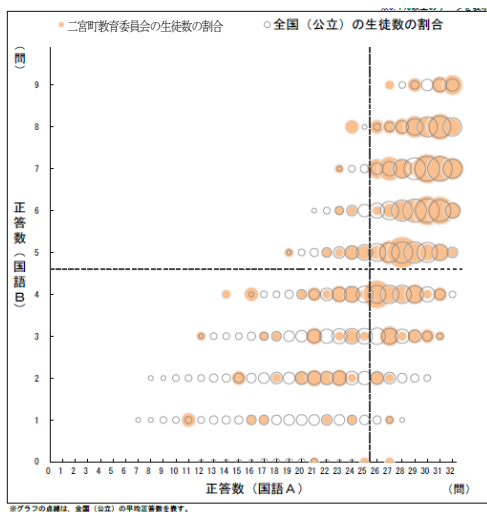
【小学校 算数 A—算数 B バブルチャート】



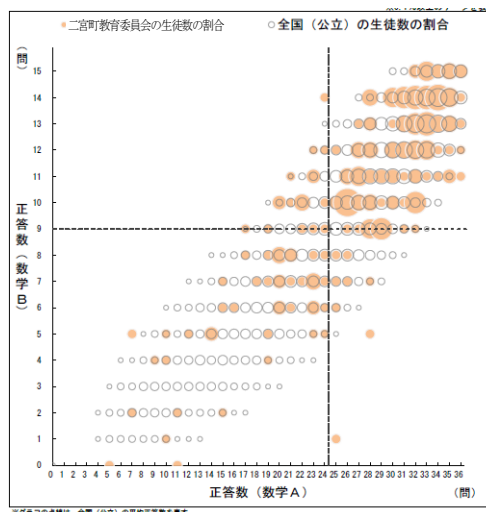
- ・ A問題ができているのにB問題の正答が少ない児童がいる。

- ・ A問題もB問題もできていない児童がいる。

【中学校 国語 A—国語 B バブルチャート】



【中学校 数学 A—数学 B バブルチャート】



- ・ 全体に右上方に分布している。

- ・ 全体に右上方に分布している。

#### (4) 児童生徒質問紙

（「している」「当てはまる」と回答しているものが全国平均と±5%以上の差があるものを**太字**で表示。「している」「当てはまる」という回答では答えられない質問については省略。「総合」は「総合的な学習の時間」の略。）

質問内容	小学校 (%)			中学校 (%)		
	二宮町	神奈川県	全国	二宮町	神奈川県	全国
朝食を毎日食べている	<b>82.0</b>	87.9	88.1	<b>77.6</b>	81.2	83.8
毎日同じくらいの時刻に寝ている	39.9	36.4	37.4	<b>17.1</b>	25.9	29.4
毎日同じ位の時刻に起きている	56.2	55.4	58.0	<b>43.0</b>	47.5	55.8
難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦する	25.8	23.4	23.7	<b>9.6</b>	17.1	17.0
友達の前で考えや意見を発表することが得意	<b>27.5</b>	20.5	19.3	11.1	16.5	15.7
友達に伝えたいことをうまく伝えられる	<b>36.9</b>	27.9	27.3	<b>14.0</b>	22.1	22.3
家の人と学校の出来事を話す	<b>58.4</b>	53.5	53.2	<b>46.5</b>	40.1	41.9
家で学校の宿題をしている	<b>76.4</b>	83.6	86.0	64.9	55.7	63.7
学級で協力し嬉しかったことがある	59.2	57.3	56.9	<b>71.9</b>	58.9	58.5
先生はよいところを認めてくれている	39.9	32.9	35.9	<b>33.3</b>	24.0	26.2
地域の行事に参加している	<b>44.2</b>	29.0	37.7	19.3	12.1	16.6
ニュースを見る	<b>62.2</b>	57.5	53.8	<b>59.2</b>	51.0	48.1
学校の規則を守っている	<b>33.5</b>	36.0	39.9	<b>70.2</b>	51.2	55.6
いじめはどんな理由があってもいけない	82.0	78.9	82.1	<b>65.8</b>	65.8	72.1
人の役に立つ人間になりたい	<b>67.0</b>	69.7	72.0	73.7	69.5	72.8
「総合」は普段の生活や社会で役に立つ	<b>34.8</b>	39.2	40.7	<b>29.4</b>	17.8	23.0
「総合」で課題決定・情報収集・整理・発表している	23.6	23.6	23.8	<b>47.4</b>	15.6	16.1
インターネット等でグループで調べ学習を行った	<b>40.3</b>	38.1	35.0	17.1	13.4	14.0
考えを発表する機会が与えられている	<b>44.2</b>	48.4	49.7	<b>44.7</b>	34.6	36.9
児童・生徒の間でよく話し合う	51.1	46.4	47.3	<b>40.8</b>	28.6	31.3
授業の始めに目標が示されていた	<b>39.9</b>	45.0	50.9	36.8	21.6	32.9
授業の最後に振り返りを行った	<b>27.5</b>	32.4	34.5	<b>10.1</b>	14.1	15.6
読書は好きですか	46.4	47.6	48.9	<b>39.9</b>	41.7	45.9
国語の授業は将来役に立つ	<b>48.1</b>	55.3	53.6	45.6	43.7	42.2
自分の考えを話したり書いたりする	20.2	20.0	19.1	<b>21.1</b>	15.7	15.2
算数・数学が好き	39.1	39.1	38.4	<b>36.8</b>	31.0	29.3
算数・数学ができるようになりたい	52.8	52.1	52.0	<b>80.7</b>	73.1	73.6
算数・数学の授業は将来役に立つ	<b>58.8</b>	66.5	65.6	39.5	34.0	36.7
公式やきまりの根拠を理解する	<b>35.6</b>	46.9	46.3	36.4	32.0	32.5
考えが分かるようにノートに書く	52.8	54.9	53.3	<b>56.1</b>	46.0	45.4

## 4 結果について

### (1) 教科に関する調査より～小学校～

小学校の国語 A、算数 A・B においては、県と全国の平均正答率を若干下回っておりますが、国語 B は上回っています。国語 B では 10 問ある設問のうち 7 問以上正答した児童が全体の 40%以上いて平均点を押し上げました。反面、国語 B で 1 問も正答できなかった児童が 3.4%おり、これは算数 B の 1 問も正答できなかった児童の 1.3%を大きく上回ります。設問別の状況のバブルチャートから国語 B 問題で 1 問も解けなかった児童が国語 A 問題では 7 問、8 問と正答していることが分かります。全国の調査でも「国語 B の正答が多い児童は、国語 A の正答も多い傾向にあるが、国語 A の正答数が多い児童は、国語 B の正答数において広く分布している。」と報告されており、知識をもっている活用が十分にはできていない状況が伺えます。各校にて国語 B の問題を分析し、国語 B で問われている力を児童が身に付けられるような指導の工夫が求められます。国語 A・B、算数 A・B とも無回答率が全国、県と比べて多くなっています。漢字の読み書きや四則計算などの基礎基本の定着が必要です。

### (2) 教科に関する調査より～中学校～

中学校においては、国語 A・B、数学 A・B で全国と県の平均正答率を大きく上回っています。正答率が過半数に満たない生徒が全国と県に比べて大変少ない状況です。領域別に見ても、全ての領域において全国と県の平均正答率を上回っています。無回答率が全国と県に比べて低くなっています。

### (3) 質問紙調査より～授業について～

二宮町の小・中学校では「授業の最後に振り返りを行った」と答えた児童生徒が全国平均より大幅に少ない状況です。学校に対する質問紙で「調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか」「調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」という設問に対して「よく行った/どちらかといえば行った」と町内 5 校の学校が回答しており、児童生徒の実感と若干かい離しています。授業の始めに目標を示し、最後に振り返りを行う授業展開を児童生徒が意識できるような展開が望まれます。

「平成 26 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」（平成 26 年 8 月）には次にあげるような取組を行った学校の方が教科の平均正答率が高い傾向が見られると報告されています。このような報告を参考に授業形態の研究がさらに進むことが望まれます。

#### 「平成 26 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」（平成 26 年 8 月）より

- ・総合的な学習の時間において課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしている
- ・学級やグループで話し合う活動を授業で行った
- ・学級の友達との間・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること
- ・各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
- ・言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる
- ・授業の冒頭で目標を児童に示す活動を計画的に取り入れた
- ・授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた

『「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか』という設問に対して二宮町の中学校の生徒は「当てはまる」と回答したのは47.4%「どちらかといえば、当てはまる」と回答したのは40.8%になり双方を合わせると87.4%になります。これは全国(54.8%)県(44.4%)を大きく上回ります。同じ設問で小学校の児童は「当てはまる」と回答したのは23.6%「どちらかといえば、当てはまる」と回答したのは43.3%になり双方を合わせると66.9%になります。これは全国(63.8%)県(64.0%)を上回ります。「総合的な学習」で探求の過程を意識した指導が二宮町全体で行われていることが分かります。

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、嬉しかったことがありますか」という設問に対して児童生徒ともに肯定的な回答が多くなっています。特に中学校生徒では71.9%と全国や県よりも10%以上高くなっています。行事や授業を通じて児童生徒の達成感や所属感が育まれています。

#### (4) 質問紙調査より～生活習慣等～

児童生徒質問紙調査で二宮町の児童生徒がともに全国平均より5%以上低い回答をしているのは「朝食を毎日食べている」「授業の最後に振り返りを行った」でした。

「毎日同じ位の時刻に起きている」という質問に対しても小学校の児童は5%までは開きがありませんが小・中学校ともに「している」という回答をした児童生徒が少ない状況です。「朝食を毎日食べている」と答えた児童生徒とも教科の調査での平均正答率が高くなっています。

#### 【「朝食を毎日食べていますか」という設問に対する選択肢別の教科の平均正答率】

(小学校)

質問番号	質問事項
(1)	朝食を毎日食べていますか

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢	児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)			
			国語A(15問)	国語B(10問)	算数A(17問)	算数B(13問)
1 している	191	82.0	73.2	58.1	77.6	58.0
2 どちらかといえば、している	23	9.9	62.6	43.9	64.5	48.2
3 あまりしていない	15	6.4	60.0	48.0	63.9	47.7
4 全くしていない	4	1.7	61.7	40.0	61.8	51.9

(中学校)

質問番号	質問事項
(1)	朝食を毎日食べていますか

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢	生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)			
			国語A(32問)	国語B(9問)	数学A(36問)	数学B(15問)
1 している	177	77.6	85.3	61.1	78.1	72.0
2 どちらかといえば、している	37	16.2	81.3	49.8	71.4	65.6
3 あまりしていない	14	6.1	79.0	51.6	63.5	60.0
4 全くしていない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

全国の調査でも『「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」という質問と教科の平均正答率に関連が見られる』と報告されています。規則正しい生活習慣の確立が望まれます。

「ニュースを見る」と答えた児童生徒が全国平均を大きく上回っています。「地域の行事に参加している」と答えた児童生徒も全国平均を上回っています。「見ている」「している」と答えた児童生徒の教科の調査での平均正答率は高くなる傾向があります。広く社会や地域に目を向けている好ましい姿が浮かんできます。

「家の人と学校のことを話す」「先生はよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒が多く、周囲の大人と良好な関係が築けています。

「平成 26 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」(平成 26 年 8 月)では、平日の携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを使用する時間の短い児童生徒の方が平均正答率が高いと報告されています。二宮町の児童の使用状況は全国平均とほぼ同じですが 1 日 4 時間以上使用している小学校の児童の割合が多くなっています。4 時間以上使用している児童の国語 A の平均正答率は 53.9%でした。他の回答をした児童の平均正答率は 65%を上回っています。全国の調査結果と異なり使用時間が短いほど平均正答率が高いとは言えませんが、4 時間以上使用している児童の平均正答率は他の児童の平均正答率と比べて低くなっています。

中学校の生徒の使用状況は全国平均とほぼ同じですが、所持していない生徒の率が低く、多くの生徒が携帯電話やスマートフォンを使用している状況です。使用時間が 4 時間以上の生徒の教科の調査での平均正答率は他の生徒よりも低くなっています。小学生、中学生ともに携帯電話やスマートフォンの適切な使用方法を身に付ける必要が感じられます。

【「携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの 1 日あたりの使用時間」という設問に対する選択肢別の平均正答率】

(小学校)

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢	児童数	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)			
			国語 A (15 問)	国語 B (10 問)	算数 A (17 問)	算数 B (13 問)
1 4 時間以上	11	4.7	53.9	44.5	63.6	44.8
2 3 時間以上、4 時間より少ない	2	0.9	70.0	55.0	91.2	57.7
3 2 時間以上、3 時間より少ない	13	5.6	65.6	45.4	69.2	45.0
4 1 時間以上、2 時間より少ない	9	3.9	79.3	68.9	90.2	68.4
5 30 分以上、1 時間より少ない	26	11.2	66.9	55.0	76.2	58.0
6 30 分より少ない	60	25.8	74.8	59.5	77.0	58.2
7 携帯電話やスマートフォンを持っていない	111	47.6	72.0	55.3	74.3	56.3
8						
その他 (選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	1	0.4	-	-	-	-

(中学校)

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢	生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)			
			国語A(32問)	国語B(9問)	数学A(36問)	数学B(15問)
1 4時間以上	23	10.1	83.4	51.7	69.1	63.2
2 3時間以上、4時間より少ない	20	8.8	80.8	58.3	71.5	70.7
3 2時間以上、3時間より少ない	36	15.8	80.8	54.3	75.1	67.4
4 1時間以上、2時間より少ない	47	20.6	87.2	60.3	79.3	76.3
5 30分以上、1時間より少ない	32	14.0	85.4	63.2	79.3	72.5
6 30分より少ない	32	14.0	84.5	61.5	78.7	67.5
7 携帯電話やスマートフォンを持っていない	38	16.7	85.1	59.4	75.1	69.6

## 5 今後に向けて

本調査の結果は、小学校では若干下回る教科があり、中学校では良好なものでした。今後とも基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とともに、これらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりに努められるよう教育委員会は各学校を支援して参ります。あわせて基本的な生活習慣や学習習慣の確立の大切さを家庭、地域へも伝えていきたいと考えております。町民の皆様におかれましても、本町の児童生徒の健全育成のため今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。